

「農家台帳」による組合員への作付提案

厚木市農協(神奈川県)

取組の概要

- 農協が「農家台帳」を作成し、直売所出荷農業者(約800)を対象に、各農業者・作物・圃場ごとに、1か月を3等分し、どの時期に作付け・収穫・端境があるのか把握。
- 組合員の生産する農産物の生産量の把握とデータ分析により、直売所の端境期や荷の集中期を予測し、農協が農業者へ作付提案を実施。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 直売所の設立と全販売農家訪問

平成22(2010)年に大型直売所を設立。それまでは、支所ごとの直売所があったが、新しい直売所では全地区から出荷を受けることとしたため、管内全体での出荷量の把握をするため、全販売農家を訪問し、生産状況のデータ化を実施。

データ化に当たっては、何度も繰り返し訪問して段階的に細かくデータ整備するとともに、株数・畝数から生産面積を計算して入力するなどの工夫を行った。

2 組合員の生産状況の「見える化」

データ化によりどの時期にどのような端境期が発生するかが分かるため、組合員に根拠を持って作付提案を行えるようになった。農業者によって、得意・不得意があるため、データだけでなく、営農指導員が日常の活動の中で把握した情報と併せて提案を実施。

データ化の前も、各営農指導員は、生産者の営農状況を把握していたが、これにより、異動の際の引き継ぎが容易になるとともに、急な農業者の継承が発生しても、データを元に営農継続のための提案が可能になった。

3 手作りの農家台帳

農家台帳を管理するエクセルファイルは、農協の担当者が作成。手作りの台帳なので、しっかり仕様が固まっているわけではなく、活用にあたって、一定程度融通が利く。

整理の段階としては、①組合員ごとの生産作物を把握、②作物毎の面積や生産量を把握、③直売所のシステムでの把握内容との整合性を確認、④作付提案のための栽培時期の整理を実施。

データは随時更新し、更新時期を入力。直売所出荷者のデータに限る台帳とすることで真に必要なデータを効率的に整備。

取組の実績

<農家台帳>

○農業者ごと、作物ごとに出荷時期を整理

グループ コード	品目名 名称	面積 (㎡)	収穫量 (kg)	推定販売額 (円)	3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1			
					上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1800	米類	8000.0	3600.0	720,000																								
1800	米類	4700.0	2115.0	423,000																								
300	うめ類	300.0	150.0	82,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
600	かき類	700.0	1050.0	378,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1300	キャベツ類	100.0	500.0	65,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1800	米類	10600.0	4770.0	954,000																								
2600	しょうが類	100.0	300.0	528,000																								
6100	その他野菜	ナガイモ	200.0	1200.0	0																							
6310	切花類	バラ	2200.0	0.0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6320	鉢物類		1000.0	0.0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6330	花苗類		4000.0	0.0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6350	野菜苗類		1000.0	0.0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0											
1800	米類	5000.0	2250.0	450,000																								

※「0」は栽培時期、「1」は出荷時期